多田善四郎のこと

杉原丈夫

松平文庫の「御国町方」という帳簿には、藩から扶持米をもらっている町人、いわゆる豪商についての記録がある。この本は江戸中期以後の記録なので、古いことは不明であるが、中期以後の米屋家について五人の名が記してある。①米屋善四郎②米屋万助③米や事多田善四郎④多田万吉⑤多田甚太郎。

①米屋善四郎は、宝暦十一年（一七六一）六月十一日、御札所元〆役出精につき三人扶持をもらっている。

②米屋万助は、天明五年（一七八五）四月廿五日、親善四郎の跡を継ぎ、御札所元〆役を仰せ付けられ、三人扶持をもらっている。

③米や事多田善四郎は、文化元年（一八〇六）十一月廿九日、脇指御免、年始門松御免、名字御免になり、同年十二月七日名字を多田と改めている。なお彼は、その後だんだん扶持がふえ、文政十一年（一八二八）八月廿九日には十人扶持になった。天保七年（一八三六）十一月十七日、名を茂四郎と改めている。

④多田万七は、天保十四年（一八四三）六月廿九日、親茂四郎病気にて家名相続、門松・苗字御免となり、同年七月廿二日善四郎と名を替えている。五人扶持である。

⑤多田甚太郎は、明治元年（一八六八）十二月十七日、親善四郎病身につき代替りをしている。五人扶持である。

この資料で知りうる限り、善四郎という名は、ほぼ代々世襲のようである。しかし多田という姓は、文化元年十一月廿九日名字御免となり、それにより同年十二月七日多田と改姓している。それまでは米屋という屋号を姓として用いていたのである。祖先が多田氏なので、名字を許された機会に祖先の姓をもって新しい姓としたのであろう。

祖先の姓が多田であったことと、商人としての米屋家が、多田という名字を名乗ることとは別である。本家の多田家自体が、祖先の姓は源であるのに、源とは名乗らず、多田と称していた。そのまた分家が、商人であるため、多田と名乗れず、米屋という屋号を用いていたのである。歌人として有名な橘曙覧の

本家は橘姓であるが、分家である彼の家は正玄を姓としていた例がある。

なお「米五家の沿革」によれば、米五の本家たる米屋の初代は善右衛門景連、法名浄心、寛永十二年（一六三五）没。二代目は法名浄教、天和二年（一六八二）没である。分家の米五も代々米屋を名字とし、明治になって多田と名乗っている。本家米屋は明治十四年ごろ没落している。

さて問題は、馬鹿ばやしの創始者はだれかということである。「旭区史」は、多田善四郎が伝授したとしているが、そのような説は近年の新説である。わたしたちが以前から聞いているのは、米屋善四郎が馬鹿ばやしの面を寄附したということである。馬鹿ばやしそのものは民間芸能であって、起源はもっと古いのではなかろうか。

面を寄附した米屋善四郎は何代目の善四郎で、それが何年であったか、いっさい不明である。

以上簡単であるが、前号の三田村保正氏の玉稿への附記とする。